

日本人口学会・京都大学 GCOE 共催国際講演会
「現代世界の最新人口現象：出生率回復と国際結婚」

Most Recent Issues in World Population: Fertility Reversal and Marriage Migration

長らく低迷してきた先進国の出生率が、ヨーロッパを中心に回復の動きを見せている。いったいなぜだろうか。政策が功を奏したのだろうか。またこの傾向は長続きするのか。この現象に早くから注目し、*Nature* に掲載された論文が注目を集めたヨーロッパの若手人口学者ミッコ・ミルスキラの最新の分析をうかがい、超低出生率に喘ぐ東アジアへのヒントを探る。他方、東アジアでは出生性比の偏りやケアの需要から、国際結婚が日常の一部となった。しかしそれへの政策的対応は国によって大きく異なる。アジアにおける国際人口移動とそれに関する政策研究で国際的に著名なイ・ヘギョン氏に韓国を中心とした見取り図を描いていただき、日本の位置を再考する。

(発表は英語。通訳有)

日時： 2011 年 6 月 10 日 14 - 17 時

会場： 京都大学楽友会館 京都市左京区吉田二本松町

第 1 講演

Mikko Myrskylä (Max Planck Institute for Demographic Research, Germany)

“The Determinants and Patterns of Recent Fertility Increases in the Developed World”

ミッコ・ミルスキラ (マックスプランク研究所研究員)

「先進国における近年の出生率上昇のパターンと決定要因」

討論者：岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所研究員)

通訳： 福田節也 (マックスプランク研究所研究員)

第 2 講演

Hye-Kyung Lee (Paichai University, Korea)

“Marriage Migration and Related Policy Issues in North-East Asia”

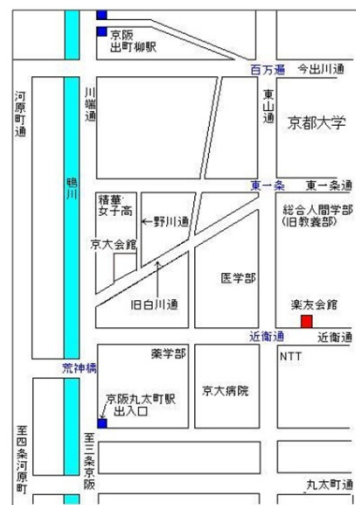
イ・ヘギョン (韓国パイチャイ大学教授)

「北東アジアにおける国際結婚と関連政策」

討論者：小島宏 (早稲田大学教授)

通訳： 安里和晃 (京都大学特任准教授)

問合せ先：京都大学グローバル COE「親密圏と公共圏の再編成を
めざすアジア拠点」事務局 電話：075-753-2734



(京都大学楽友会館 1925 年建設 登録有形文化財)